

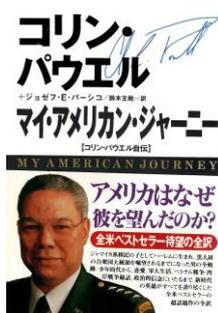
甲状腺外科草子 9

静かなる男：コリン・パウエル

杉野 圭三

以前、一冊の本を娘からプレゼントされた。2021年10月18日コロナ感染症と多発性骨髄腫で死去したコリン・パウエル元米国防務長官の自伝「マイ・アメリカン・ジャーニー」である。辞書のように分厚いが（3横指！）、流麗・簡潔な文章で小説よりも面白い本である。巻末に記載されたコリン・パウエルのルールはよく引用され有名だが、13か条の中で「何事も思うほどは悪くない。朝になれば状況はよくなっている」というのは好きな言葉である。

「リーダーを目指す人の心得」もよく売れているようで、「菅義偉総理の愛読書」という帯がかけてある（その内に変更か？）。



略歴を以下に記す。リーダー論、心得、記者会見の要領なども詳細に記述されているが別の機会とする。

1. 生い立ちと学生・軍隊時代

ジャマイカ系移民の子として、ニューヨークのハーレムで誕生、ニューヨーク市立大学卒業後、1958年陸軍入隊、ドイツ、韓国で勤務、ベトナム戦争に2度従軍し、負傷。



結婚式(1962)

ベトナム戦争ヘリ墜落(1968)

2. 国防総省時代

1977年カーター政権下で国防総省勤務、レーガン政権下でワインバーガー国防長官の補佐官。1987年11月、国家安全保障問題担当大統領補佐官就任

3. 統合参謀本部議長

1989年就任、ブッシュ大統領の下、(第41代、父ブッシュ) 湾岸戦争やパナマ侵攻の指揮をとった。



湾岸戦争(1991)

退任式(1993)

4. 国防長官

2000年就任、ブッシュ大統領(第43代)の下で5年間勤務。

言動と逸話

学生時代は学業の成績やスポーツも得意ではなかったが、ニューヨーク市立大学に入学(ニューヨーク大学にも合格したが授業料が750ドル/年であり、10ドル/年の市立大学を選んだ)。その後 ROTC(予備役将校訓練課程)で優秀な成績をおさめ、陸軍入隊のきっかけとなった。ROTCは学費や奨学金支給制度があり卒業後は士官として入隊できるため、競争率は高い。1971年にはジョージ・ワシントン大学でMBAの学位取得したのも、アメリカの軍隊生活ならではの特典である。しかし、本人は微分積分、統計分析、コンピューター・ロジック講座などで苦心したと述べている。

「己の欲するところを人に施せ」、「必要だと思う以上に親切にしてください。あなたが思うよりもはるかに強く、親切を受け取る側はその親切を必要としているのだから」、「わかっていることを言え、わかっているな

いことを言え、その上で、どう考えるのかを言え、この3つを常に区別しろ」など多くの言葉を残している。

自動車修理が好きで、壊れたボルボを修理し、人にプレゼントするのが趣味であった。退役の際に友人たちが金を出し合ってプレゼントしたのも錆びついた 66 年型ボルボであった。

國務長官就任の演説は「仕事を楽しめ」「いくら役所に遅くまでいても俺は評価しない」「仕事が終わったら家へ帰れ」「昼食はチーズバーガーで十分、宿泊はホリデーインが好きだ」など、簡潔、ユーモアにあふれ、大きな話題となった。

ボブ・ウッドワード氏のインタビュー(2021)が最後のものとなった。

「あなたが知るなかで最も偉大だった人は？ 必ずしも指導者ではなく、あなたを導き、道徳的指針となり、礼節があり真実を重んじる人は誰でしたか？」との問いに、即答で「それはアルマ・パウエルだよ」、「彼女はどんなときも私のそばにいてくれた。結婚して 58 年、私が家にいないときは子供たちのことをまかせっきりにしたりと、多くのことに耐えてくれた。ずっと一緒にいてくれて、彼女が『それはやめといたほうがいいんじゃない』と私に言ったときは、たいてい正しかったよ」。

「**気乗りしない戦士**」とのあだ名についての質問には、「私は戦争が好きではない。戦士にはなりたくない」と語る一方、「戦争となれば相手をたたきのめして勝利するため、できることを全てやる」「それがパウエル・ドクトリンとして知られるものだ」と述べている。

世の中で戦争を最も避けたがるのは、いつの世も軍人である。戦場に立った経験のある兵士ほど生命の重要性を知るものはない。パウエルの日常の言動はいざ知らず、

重要事項を決断する時の印象は映画「**静かなる男**」の主人公と重なるものがある。

この映画の中で、ジョン・ウエイン演じるボクサーは試合中に相手を殺し、生まれ故郷のアイルランドの田舎に帰り平穏な生活を送りたいと願う。しかし、新妻と義兄との意地の張り合いで大乱闘となり、最後はハッピーエンドに至るお決まりの筋書きである。共演者はフォード一家お馴染みのモーリン・オハラとヴィクター・マクラグレンであり、ジョン・フォード監督(アカデミー監督賞受賞)の傑作である。



静かなる男 (1952)

パウエルも最後まで平和を希求し国際協調路線を模索する軍人であった。

アメリカの歴史の中で統合参謀本部議長や國務長官の職務に黒人が就任したのはパウエルが初めてであった。人種の壁を打ち砕いた先駆者として名を残しただけでなく、党派を越えて多くの人から敬愛された稀有な指導者だった。

参考文献

コリン・パウエル、ジョゼフ・E・パーシコ。マイ・アメリカン・ジャーニー。角川書店、1995。

コリン・パウエル。リーダーを目指す人の心得。飛鳥新社、2017

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2021年12月1日